

みんなの 随想

どうにも止まらない

江戸時代、松尾芭蕉が旅した「おくのほそ道」の福島
の玄関口、白河で生まれた
私は、今、福島市飯坂町で
暮らしています。時折、芭
蕉ゆかりの地の石碑などを
眺めては、勝手に不思議な
ご縁を感じています。有名
な歌枕の地を訪ねるという
ワクワクと、自身の俳諧を
突き詰めてみたいという強
い思いが、かの大行脚敢行
の原動力だったそうです。
実はここ十数年来「養蚕」
と聞くと私のワクワクも止
まることを忘れた感じで
す。きっかけは東日本大震
災と原発事故です。もしか
したら歴史、優しさ、未来を
も内包している自然素材が
使えなくなってしまうかも
しれないという危機感を抱
きました。祈るような気持
ちで仲間と共に真綿を染め
紡いだ糸で、茜色の振り
袖を織り上げました。その
際、見聞きした蚕種（蚕の
卵）から養蚕、織物まで、こ
の地で完結できる福島の養
蚕文化に魅せられました。
養蚕をテーマにしたイベン
トやワークショップでは偶
然とは思えないような人や
道具との出会いがあり、ま
すますのめり込みました。
私を夢中にした挿話をい
つくか挙げてみます。振り
袖に使った真綿「入金真綿」
は伊達地方独特の作り方
で、よこにはない製法です。
結城紬の原料糸にもなっ
ています。福島市民家園には
全国から専門家が来るほど
貴重な資料や織り機があり
ます。どれも連綿と受け継
がれてきた文化があるから
こそです。東北でたった一
軒という蚕種屋さんや、稚
蚕共同飼育所の話を聞いて
からは「伝えなくちゃ」「な
んとかしなくちゃ」という
強い思いにかられていま
す。絹の高い美容効果に至
っては、お蚕様を自宅で飼
って高級化粧品を手作りす
れば、みんなでピカピカ素
肌になれるかもと本気で考
えたりしています。
一方で驚いたのがお蚕様
の一生です。羽化した蚕
蛾は口を持たないので餌を
食べられません。子孫を残
し1週間ほどで一生を終え
ます。絹糸は、命あるものか
ら生まれる大切な糸なので
すよね。知るほどに暮らし
と濃密な関係にあったお蚕
様が愛おしくなり、ついには
自分で養蚕を始めてしま
いました。ご年配の方の記
憶を辿り福島の養蚕文化を
伝承していくことは、福島
ならではの魅力の再発見に
繋がります。それって新た
な福島のまちづくりになっ
ていくんじゃない？なんて
思うと、もう胸の高鳴りが
止まらなくなるのです。



鈴木 美佐子

福島市・染織家

▲ 4月22日 福島民友新聞掲載

記事から知り得たこと

調べてわかったこと、考えたこと（330字程度）

疑問に思ったこと、調べてみたいこと

「どうにも止まらない」ことがある生き方について、
皆さんはどう考えましたか。

